



さわやか八中

H27 学校だより No.1
平成 27 年 4 月 8 日
文京区立第八中学校長
神保 道隆

第 6 9 回入学式の式辞

毎年、年度初めに発行する学校だよりの記事には、入学式の式辞を掲載しています。そこで、昨日挙行了した第 6 9 回入学式の式辞を掲載します。式場の体育館で話を耳から聞いたときと、文章を目で読むときとは、受け取り方に大きな違いがあります。聞いた話はすぐ繰り返して確かめることはできませんが、文章は納得するまで何度でも読み返すことができるからです。もう一度、じっくりと読んでください。

校庭のソメイヨシノは盛りを過ぎましたが、校章である八重桜の蕾は赤くほころび、早くも花を咲かせています。根津神社のつつじまつりも間近となった今日、第八中学校に入学された 2 8 名の 1 年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんが着ている第八中学校のブレザーに初めて袖を通したとき、「自分もいよいよ中学生になるんだ。中学生になったら何をしよう。」と夢や期待に胸をときめかしたことでしょう。

その皆さんを、「*H a p p i n e s s *心に響くあいさつを」という生徒会のスローガンが出迎えています。2・3 年生はもちろん、第八中学校の多くの先輩たちは、毎日の授業は真剣に、友人と楽しく笑顔で、学校生活を送ってきました。学校行事をはじめ委員会活動や部活動にも積極的に取り組み、第八中学校をよりよい学校にしていこうと努力し、歴史と伝統を築いてきたのです。皆さんも今日から第八中学校の一員です。自覚と誇りをもって、先輩たちとともに第八中学校の歴史に新しい 1 ページを書き加えていきましょう。

さて、今日から 3 年にわたる第八中学校での学びをスタートさせた皆さんに、今私が読んでいる本に書かれていることを紹介します。その本のタイトルは、『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』著者はロバート・フルガムです。彼は、アメリカでカウボーイ・セールスマン・画家・牧師など多くの職業を体験し、「職業は?」と問われると、「哲学者」と答えることを常としているという人です。

その本の冒頭に、

人間、どう生きるか、どのように振る舞い、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、私は全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっていたのである。私はそこで何を学んだろうか。

何でもみんなに分け合うこと。

ずるをしないこと。

人をぶたないこと。

使ったものはかならずもとのところに戻すこと。

ちらかしたら自分で後片づけをすること。

人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。

食事の前には手を洗うこと。

トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。

釣り合いの取れた生活をする——毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして、少し働くこと。

毎日かならず昼寝をすること。

おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。発泡スチロールのカップにまいた小さな種のことを忘れないように。種から芽が出て、根が伸びて、草花が育つ。どうしてそんなことが起きるのか、本当のところは誰も知らない。でも、人間だっておんなじだ。

金魚も、ハムスターも、ハツカネズミも、発泡スチロールのカップにまいた小さな種さえも、いつかは死ぬ。人間も死から逃れることはできない。

ディックとジェーンを主人公にした子供の本で最初に覚えた言葉を思い出そう。何よりも大切な意味をもつ言葉。「見てごらん」

皆さんはこれから何を見ることになるのでしょうか。ロバート・フルガムが幼稚園で学んだというこれらのことを、中学校生活の様々な場面で確かめ、さらに深く考え、皆さん一人一人の中で大きく育てていきましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。ここに並んでいる28名の1年生の瞳は、これから始まる中学校生活に、将来の自分の姿に向けられています。中学校という未知の世界に対する一抹の不安はあるかもしれませんが、しかし、新しい生活への希望や期待は、不安を超えた大きなものでしょう。その大きな期待に応えることができるよう、教職員一同、お預かりしたお子様の教育に真摯に取り組んでまいります。保護者の皆様から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、卒業されるときには、「第八中学校で多くのことを学ぶことができて、本当によかった。」と思っただけのように努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、ご来賓の皆様、本日はご多用のところ、本校第69回入学式にご臨席を賜り、誠にありがとうございました。小学校の教育課程を修了し、第八中学校で新たな学びを始めようとする28名の新1年生を、今まで以上に温かな眼差しで見守り支援していただき、地域の一員として育てていただきますようお願い申し上げまして、式辞といたします。

平成27年4月7日

文京区立第八中学校長 神保道隆

聞くのと読むのとでは、やはり受け取り方が違うのではありませんか。1年生だけでなく、2・3年生も保護者の方々も「幼稚園の砂場で学んだ人生に必要な知恵」が何であったか、考えてみてください。私は、学ぶべきことが実にたくさん隠されている、と思います。